

日伯戦略的経済パートナーシップ賢人会議（第3回会合）

共同議長総括

2009年10月16日

1. 目覚ましい成果と新時代の展望

（1）我々日伯戦略的経済パートナーシップ賢人会議は、2007年7月、優先7分野（①鉄鋼業及びその他の金属産業、②バイオ燃料、③インフラ整備、④林産品、⑤自動車産業、⑥エネルギー資源開発、⑦CDM）での協力促進を提言し、2008年の日本の対伯投資前年比約9倍増に象徴されるように、その後全ての分野で重要な進展がみられた。また、これらが良き連鎖をもたらし、様々な分野で質の高い協力が生まれつつある。

（2）我々は、新たな国際環境に照らし、より高度な日伯関係のあり方を展望した。その結果、市場と国家のバランスある協調を重視する両国は、南米各国に普及が進んでいるデジタルテレビ日伯方式に代表されるような、付加価値をもたらすとともに、経済成長、社会的厚生及びグローバルな協力の両立に資する活動に、その努力を集中させるべきという結論に達した。

2. 有望な協力分野

我々は次の各分野を優先させることで合意に達した。

（1）農業・食料

世界的な食料供給不安が顕在化する現状において、第三国における日伯協力による食糧供給への貢献が期待される。本分野においては、付加価値の提供が重要であるが、この点で、ブラジルは持続可能性に優れた熱帯農業技術を有している。この関連で日伯セラード農業開発での経験・知見をアフリカで活用していく好機が訪れている。

（2）インフラ・情報通信

高速鉄道は、事業性が担保され、日伯両国企業による事業化が実現された暁には、日伯協力の新時代の基礎を築く21世紀のナショナルプロジェクトのひとつとなる。さらに、伯における鉄道、パイプライン、港湾整備などの優先プロジェクトに日本が参加することは、日伯双方における企業の国際競争力強化につながり、極めて重要である。

（3）エネルギー

ブラジルは、アグロエネルギー（バイオ燃料及びバイオ電力）に象徴される、豊富な天然資源・エネルギーの安定供給拠点であり、日伯双方が有する高度先端技術の活用に向けて、協調して努力を集中させるべきである。

伯沿岸部、プレサル油田（超深海油田）における大規模な石油鉱床開発は、既に顕著な発展を見せる二国間協力で新たな展望を開くものである。

（4）環境と気候変動

日本の優れた省エネ・浄化等の技術は、ブラジルの環境技術・環境意識と組み合わせることにより、環境と経済成長を両立可能にする持続可能な社会の構築に貢献しうる。気候変動問題が喫緊の重要課題となっている現状に鑑み、BNDES、JBIC、JICA、EMBRAPAなどによ

って進められている既存の協力関係を活性化しながら、大学、研究機関、業界団体を通じた両国間の密接な協力を発展させていくことが望まれる。

3. 新時代を支える日伯間のつながりと基盤の強化

- (1) 両国経済が共に発展し、両国間の貿易投資の一層の促進や、技術開発など高度な活動を強化していくことが重要である。このために、技術・ノウハウの知的財産権の十分な保証とその制度改革に加え、経済連携協定、投資協定などの法的基盤が整備されるよう、両国政府の努力を期待する。
- (2) 我々は、本年2月に開始された日伯貿易投資促進合同委員会等の枠組みを通じた官民による両国間の対話の進展を歓迎する。今後、両国の戦略的経済パートナーシップの進展が、両国政府の支援を得つつ、日本経団連と伯全国工業連盟（CNI）の参加の下、日本ブラジル経済合同委員会の調整により、着実にフォローされることを期待する。
- (3) 「新たな時代」には、新たな問題や、新たな挑戦があり、それに取り組むために新たな組織と新たな活動形態が必要となる。近年における日伯間の相互協力の発展と成功に鑑み、既存の賢人会議の運営体制を発展させ、両国政府に提案を行うためのメカニズムの構築が望まれる。
- (4) これらの課題の検討に際して、科学技術における二国間協力と人材交流の拡大の必要性が強調されるべきである。